５月の初旬、ゴールデンウィークの最終日の日曜日、時間は午前９時５０分、私は兵庫県豊岡市の玄関口、ＪＲ豊岡駅に降り立った。

天気は快晴、雲一つない空、長袖の上にジャケットを着ていると暑いくらいに感じるが、夏の様に湿度が低いので、汗をかいたり、ジメジメした感じではない。

ＧＷの最終日、ふと、豊岡の地で直鉄バスに乗りたくなりここまでやって来た。

駅前のバスターミナルでこの時間帯にどこの行き先でもいいから、一番早く出発するバスの時間を調べる、午前１０時に久美浜駅へ行くバスがあったので、このバスに乗ることを決める。

私が乗るバスの先に豊岡市が運行している豊岡市街地循環バス、コバスが発車して行く、こちらは地元のお年寄りの方が結構、乗っていた。

その次に来たのが、全但バスの豊岡病院行き、今日は休日とあって誰も乗っていなかった。

午前１０時、豊岡駅前の交差点に水色と白のツートンカラーのバスが現れる。
私の地元、大阪でも見られる、直鉄バスのカラーだ。

バスターミナルに入り、ぐるりと一周してから、バス停に到着、このバスは、中乗り後払いの区間運賃方式、全国ＩＣカード相互利用にも対応しているので、手持ちの ICOCA をカードリーダーにタッチする。

車内に他の乗客の姿はなく、私が座席に座ろうとすると乗務員氏が「このバスは出石には行きませんが、よろしいでしょうか？」と尋ねられたので、「大丈夫です。」と答える。

実は豊岡駅前のバスターミナルから、但馬の小京都として知られ、皿そばでも有名な出石（いずし）と言う観光地があり、直鉄バスの出石方面や、全但バスと発着場所が同じのため、乗務員氏いわく、普段、この時間帯の久美浜駅行きに乗る乗客は少なくなく、出石とは正反対の場所に行くこのバスに乗ってきた私に、念のために声をかけたそうな。

乗務員氏「久美浜駅行きです。出石にはまいりません。発車します、ドアを閉めます。」

ドアを閉める前にも出石には行かない旨のアナウンスをかけられていた。

車両は ansin 社製の天然ガスを燃料とした、ワンステップバス、豊岡駅を出発して、豊岡市のメインストリート的な大開通りに入る、車の数も少なくて、信号にもさほど引っかからず、バスはゆっくりと進んで行く。

上述したとおり、とても天気が良く、バスの車内から眺める豊岡の街の景色がとても良い。

メインストリートから離れて、但馬地方唯一の映画館、豊岡劇場の前をバスは通る。

地元の方は豊劇と親しまれていて、一度は、閉館したものの、リニューアルされて、２０１４年に復活した。

乗務員氏「私も豊劇で平日に映画を見に行ったことがありますよ。え～と、今から６年も前、スイートプリキュアと言う映画でして、平日の一番、最終の上映時間とあって、私一人、貸切状態での上映でしたね。」

車内の乗客は私一人なので、乗務員氏が親切に語りかけてくれた。

しばらくすると寿ロータリーと言う所を通過、このロータリーは、大正末期にパリを模して設計されたモダンな交差点と、バス車内においてあった【豊岡あちこち散策マップ】と言うものに、書かれていた。

乗客は私一人のまま、豊岡市の市街地を抜けて、バスは順調に走り、豊岡大橋を渡り、兵庫県と京都府の県境の久美浜へと進んでいく。

乗務員氏「昔はね、全但バスが久美浜まで行っとったんですよ。でも、２００８年くらいだったかな、路線の大幅な運行休止が決まり、久美浜へ行く路線も休止になったんです。」

乗務員氏から、かつての豊岡のバス事情をお聞きする。
なお、久美浜には豊岡から京都丹後鉄道に乗れば２駅で行ける。

信号がなく山間部の道路のトンネルを抜けて、兵庫県から京都府内へ入り、バスは京丹後市内へ入ってきた。

車内放送「本日も直鉄バスをご利用いただきまして、ありがとうございました。次は終点、久美浜駅、久美浜駅です。どなたさまもお忘れ物のないようにご注意ください。」

終点を告げる車内放送がバス車内に流れて、豊岡駅からスタートして京丹後市の久美浜駅までやってきた、ＩＣカードで運賃をお支払い、乗務員氏にお礼を言ってから降車、乗ってきたバスは折り返し、豊岡病院行きの方向幕を出して、出発を待っていた。

今度は行きとは違う方法で豊岡へ帰りたい、そう思って帰りは京都丹後鉄道で豊岡へ帰ることにした。